

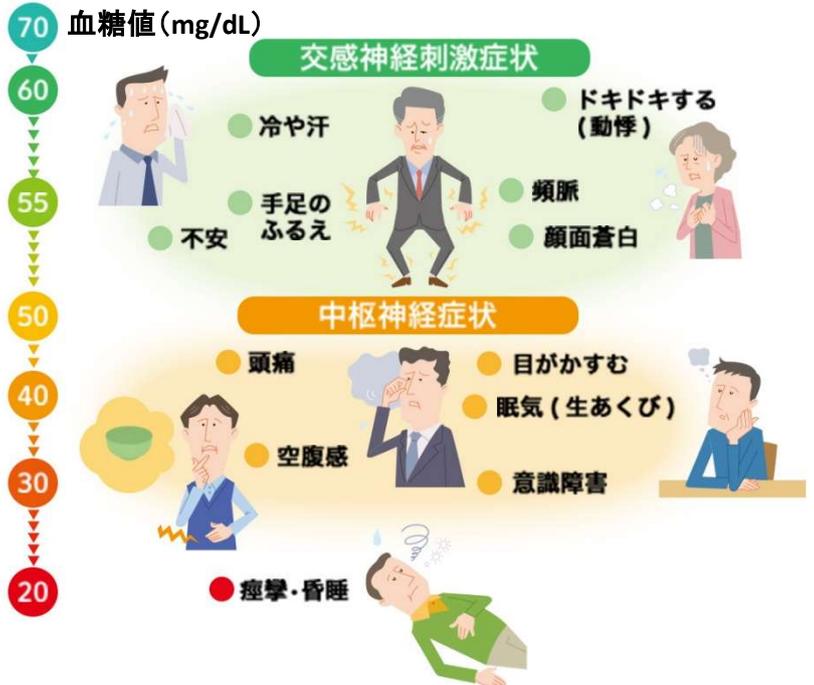


低血糖を気付きにくくする薬って何？

患者さんが薬の量や服薬・注射するタイミングを間違えたり、食事時間のずれや食事量の不足、激しい運動などにより、低血糖が起こりやすくなります。

血糖値が低下すると、まず交感神経刺激症状（冷や汗、動悸、不安、手足のふるえ、頻脈、顔面蒼白）が警告症状として現れます。

この警告症状が現れる血糖値レベルを超えてさらに血糖値が低下すると、中枢神経症状（頭痛、目がかすむ、眠気（生あくび）、空腹感、意識障害、痙攣・昏睡）などが発現し、意識を失うこともあります。



（出典：アステラスメディカルネットホームページ）

さて、高血圧、狭心症または慢性心不全などの治療で処方されることの多いβ（ベータ）遮断薬は、交感神経のβ受容体を遮断、つまり交感神経の働きを抑えることで、血圧や心拍数を低下させる作用があります。

先ほど述べましたように、低血糖の警告症状として交感神経刺激症状が現れます。また、血糖値を上げるインスリン拮抗ホルモンの分泌にも交感神経が関係しています。

したがって、β遮断薬の使用により、低血糖による交感神経刺激症状がマスクされて低血糖に気付きにくくなったり、低血糖からの回復が遅れることがあります。経口血糖降下薬やインスリンによる治療をされている患者さんで、β遮断薬をご使用中の方は、低血糖に注意しましょう。

代表的なβ遮断薬

- ・カルベジロール（アーチスト[®]錠など）
- ・ビソプロロール（メインテート[®]錠、ビソノ[®]テープなど）

薬の飲み合わせによる副作用が現れないようにするために、いま飲んでる血糖降下薬は必ず医師に伝えましょう。



＜編集後記＞

この時期は色々な感染症が流行ります。日頃の手洗いやうがい、人混みではマスク着用など、感染予防に気を付けましょう。

発行元：市立三次中央病院
糖尿病療養指導チーム
文責：薬剤師（中村、田畑）